# 徒然草

## 亀山殿の御池に　―品詞分解―

亀山殿（格助・体修）の御池（格助・場所）に大井川（格助・体修）の水（格助・対象）を引（サ下二・未）かせ（尊・未　語り手→上皇）られ（意・終）ん（格助・引用）とて、大井（格助・対象）の土民（格助・対象）に作ら（ラ四・未）せ（使・未）られ（尊・用　語り手→上皇）て、水車（格助・対象）を仰せ（サ下二・用（尊）語り手→上皇）て（接助・単接）、数日（接助・単接）給ひ（ハ四・用（尊）語り手→上皇）て、おほかた（副）に（接助・単接）、銭（格助・対象）を掛け（カ下二・用）たり（完・用）ける（過・体）に（格助・時間）、営み出だし（サ四・用）て、（接助・単接）多く（形ク・用）の（格助・体修）人（格助・対象）を召し（サ四・用（尊）語り手→上皇）て（接助・単接）、結ひ（ハ四・用）すやすらかに（形動ナリ・用）ぞ思ふ（ハ四・体）やうに（比・用）、めでたかり（ク・用）けり（過・終）。

つひに（副）回ら（ラ四・未）で（接助・打消）、いたづらに（形動ナリ・用）立て（タ四・已）り（存・用）けり（過・終）。

さて（接）、宇治（格助・体修）の里人（格助・対象）を召し（サ四・用（尊）語り手→上皇）て（接助・単接）、こしらへ（ハ下二・未）させ（使・未）られ（尊・用　語り手→上皇）けれ（過・已）ば（接助・順偶）、やすらかに（形動ナリ・用）結ひ（ハ四・用）ける（過・体）が（格助・主格）、思ふ（ハ四・体）やうに（比・用）めでたかり（ク・用）けり（過・終）。

めぐら（ラ四・未）ざり（打・用）けれ（過・已）ば（接助・順理）、とかく（副）直し（サ四・用）けれ（過・已）ども（接助・逆確）、おほかた（副）に（接助・単接）て、数日（接助・単接）を経（ハ下二・用）て（接助・単接）参ら（サ下二・用（謙）語り手→上皇）せ（使・未）られ（尊・用　語り手→上皇）たり（完・用）ける（過・体）が（格助・主格）、水（格助・対象）を汲（カ下二・体）くみ入るる（ラ下二・体）こと（形ク・用）めぐり（ラ四・用）て（接助・単接）、そ（代）の（格助・体修）道（格助・対象）を知れ（ラ四・已）る（存・体）者（係助・区別）は、よろづに（副）、やんごとなき（形ク・体）ものなり（断・終）。